

社会福祉法人 名古屋市熱田区社会福祉協議会

第4次熱田区地域福祉活動計画

「ぬくといつながり」のあるまちの育て方

実施期間：令和元年度～令和5年度
(2019) (2023)



(表紙の絵および挿絵の一部)

「熱田区手をつなぐ育成会」さん、「生活介護事業所しらとり」さんの協力を得て、提供いただいた作品を使用しております。

計画の策定にあたって

■『ぬくといつながり』あるまち」の熱田のもり（杜・森）を目指して

熱田区は歴史あるまちであり、悠久の時の中で育まれた伝統や文化が今も活かされています。こうした地域に暮らすものとして、今あるものに感謝し、これからの時代を見据えて自分たちの地域福祉のあり方を考えることはとても大切であると思います。



会長 山崎 梅治

第1次計画から15年を経て、この間に積み上げられた実践は大切な資源として今も活かされていますが、社会情勢や地域課題の変化に伴い、地域での住民同士の関わりやつながりとともに関係機関との連携がますます重視されています。これらにより、第4次計画の策定は、3次計画までの「熱田区社会福祉協議会」を冠とした計画から、「熱田区」を冠として、住民と関係機関等がともに取り組み計画であることを明確にし、公募委員、地縁団体関係者、福祉サービス事業者、地域福祉活動実践者、行政職員が加わった作業部会委員を中心に進められてまいりました。内容としましては「ぬくといつながりのあるまち」づくりを目指すということで、熱田区の特性を十分に作業部会委員の皆さんが噛みしめながら熟慮いただき、この特性を生かすことができる中身になりました。

しかし、ここから先は、この計画を実行していくために、より多くのつながりが必要となります。区民の皆様にはより多くの果実が実りますように、多大なお力添えをいただくことを望んでおります。まさにこの計画で謳われています「熱田のもり（杜・森）」において、豊かな土壌を育み、そこからたくさんの木々が育ち、その恩恵を受けたものたちがつながり、助け合いながら、感謝とつながりを持って生きていくことができるような地域になりますことを祈願いたします。

■第4次熱田区地域福祉活動計画を立案するにあたって

私たちが望んだことは、「私たちが愛する熱田」が住みやすく笑顔のある街であることであり、それを念頭に置いて1年間に渡って検討を重ねてきました。



第4次計画作業部会
リーダー 中田 素生

熱田区は歴史的に重要な熱田神宮や宮宿、七里の渡しがあると同時に、名古屋学院大学、名古屋工学院専門学校もあり学園都市としての側面を持っています。私たちは、学生を含めて区民が地域福祉に気軽に参加するためには、誰でも参加できる「ゆるい」つながりが必要と考え、「ぬくといつながり」をキャッチフレーズにしました。ただし普段はゆるくともいざというときにヘルプが言えて、つながりたいときにつながることができるということも大事なことであることから、それも含めて計画の目標としました。

計画を立案するにあたって私たちは名古屋市内で「杜」をイメージできる唯一の区で有ると考え「もり」をメインテーマにしています。熱田区にとって「もり」は歴史ある熱田神宮の「杜」をイメージされると思いますし、熱田神宮の「森」は長年にわたり新陳代謝を繰り返し歴史を刻んで現在に至っています。これから熱田の「もり」の特性を生かしながら推進体制に入っていきたいと思っています。なお、この計画の一部は、名古屋学院大学の私立大学研究ブランディング事業とも連携して、共同研究の側面も有して進める予定です。

第4次熱田区地域福祉活動計画冊子 目次

1. 「地域福祉活動計画」とは	1
2. 熱田区の現状	
(1) 統計からみた熱田区	2
(2) 熱田区の良いところ	4
3. 第1次～第3次計画までの活動とその成果	6
4. 第4次計画の目標	8
5. 目標を達成するための3つのアプローチ	
(1) 育む	9
(2) 組み合わせる	10
(3) 活かす	11
6. つながるアイデア	12
7. 第4次計画の体系図	13
8. 計画の推進体制と評価	14
資料	16



Q1 「地域福祉活動計画」とは

わたしたちは生きていくうえで、子育てや介護、災害、犯罪、孤立など、様々な課題に直面する可能性をもっています。近年では、それらの解決や改善に寄与してきたとされる地域での支えあいが、町内会・自治会役員のなり手不足や地域活動の担い手の高齢化といった問題にみられるように、脆弱化してきており、わたしたち一人ひとりが「地域で暮らし続ける」ために必要なことは何かを考え、一体となって行動に移すことが求められています。

地域福祉活動計画は、わたしたちの安心・安全で幸せな生活を、わたしたちの地域が持つ力で実現させるために、地域の相談支援機関、団体、社会福祉法人、福祉サービスをはじめとした事業者などと、連携・協働して取り組んでいくための方向性や具体的な取り組み方を示した将来設計図であり、説明書であると言えます。

■第4次計画策定のねらい

本計画からは、これまでの「熱田区社会福祉協議会第〇次地域福祉活動計画」という名称から「社会福祉協議会」の文言を取り、区名を冠した名称になっています。これには、この計画の主体がわたしたち住民であることをより明確にする意図があります。また、第4次計画の策定にあたっては、これまでの計画でも大切にされてきた「熱田区らしさの有効活用」や「(第3次計画までの)思いの継承」を基礎に、①作業部会のメンバーが(本計画と)WIN-WINの関係を構築できる取り組み、②熱田区地域包括ケア推進会議(生活支援部会)等と連携・協働できる取り組み、③福祉教育を推進する取り組みの3つの方針を立てて検討を進めました。

■関連計画との関係

各区の地域福祉活動計画は、「地域福祉計画や他の行政計画と関連」し、地域住民および福祉・保健等の関係団体が地域福祉推進に主体的に関わるための具体的な活動の計画と位置づけられています。現在、名古屋市社会福祉協議会では、第2期名古屋市地域福祉計画と第5次名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画とを一体的に策定した「なごやか地域福祉 2015」を引き継ぐ、「なごやか地域福祉 2020」を策定しています。

「なごやか地域福祉 2020」においても、本計画と同様に、地域を構成するすべての人・組織が協力しながら、「人とのつながり」を通じた温かい地域づくりを目指すという方向性をもって策定が進められています。

■計画の期間および計画の見直し

本計画の期間は、令和元(2019)年度から令和5(2023)年度までの5年間です。

計画策定後に地域福祉活動計画推進委員会(仮称)を設置するとともに、目的に応じたプロジェクトチームを適宜発足させて活動を展開する予定ですが、定期的に進捗状況を精査したうえで、必要な場合はこの計画の見直しをおこないます。



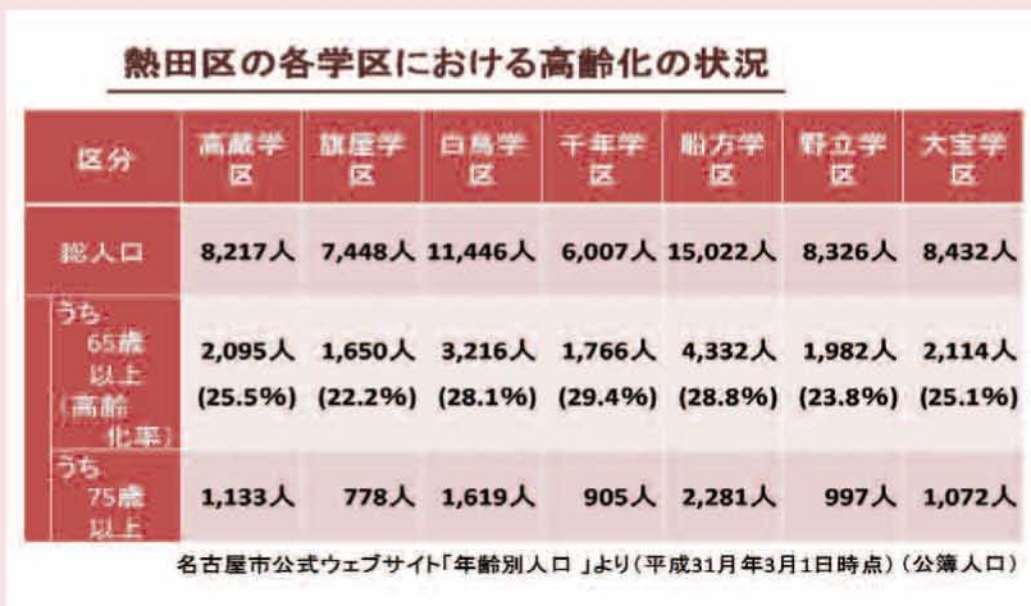
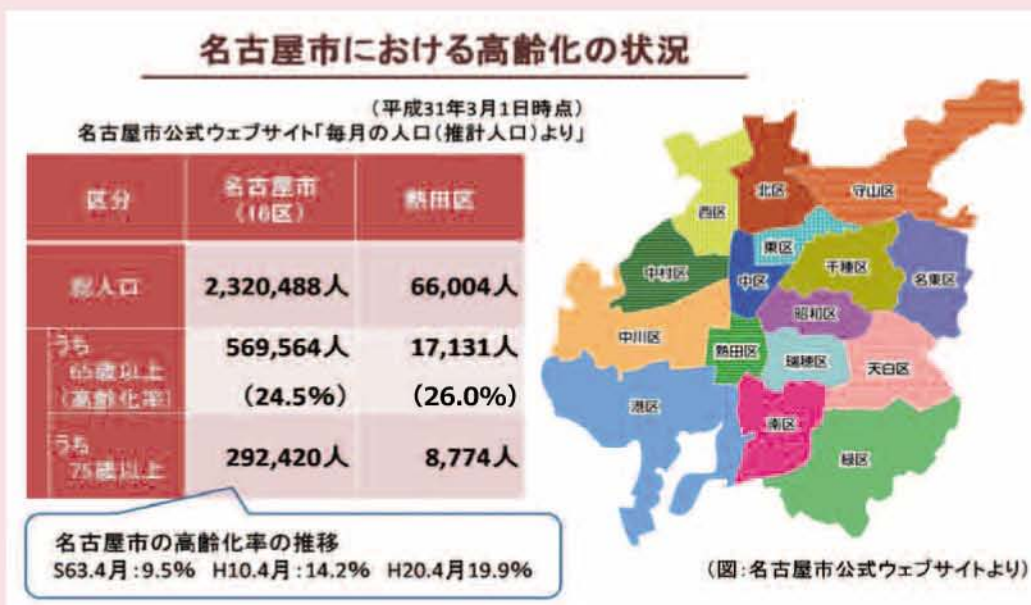
02 熱田区の現状

計画の立案やより具体的な取り組みの企画、そして、それらを実行に移すにあたって重要となるのは、熱田区の住民が抱えている（近い将来抱えるかもしれない）課題と、その解決に役立つ“地域の力”を把握しておくことです。ここでは、「統計データ」と作業部会のメンバーが捉えた「熱田区の良いところ」という、2つの観点から熱田区の現状を概観します。

(1) 統計から見た熱田区

① 高齢化について

熱田区は、名古屋市の16区中、面積は2番目に小さく、人口と世帯数は最も少ない区です。高齢化率（65歳以上人口の割合）は26.0%と高いものの、他区と比べて人口の流動が少ないことから、昔からの「顔なじみ」の住民が多い、比較的つながりが残っている区と言えるのではないのでしょうか。



②少子化について

全国的にそうであるように、熱田区でも少子化が急速に進み、核家族化等によって子育てを頼ることのできる人が身内にいないとか保育所不足の問題が社会全体にあります。そのような状況の中、熱田区では、子育ての不安・負担感を減らすために、さまざまな機関が連携しネットワークを組みながら、子育てに優しいまちづくりを目指しています。

名古屋市における少子化(14歳以下人口)の状況

名古屋市公式ウェブサイト「毎月の人口(推計人口)より
(平成31年3月1日時点)

区分	名古屋市 (16区)	熱田区
総人口	2,320,488人	66,004人
うち 14歳以下 人口	281,119人 (12.1%) 人	6,665人 (10.1%)



(図:名古屋市公式ウェブサイトより)

熱田区の各学区における少子化の状況

区分	高蔵学区	旗屋学区	白鳥学区	千年学区	船方学区	野立学区	大宝学区
総人口	8,217人	7,448人	11,446人	6,007人	15,022人	8,326人	8,432人
うち 14歳以下 人口	791人 (9.6%)	1,040人 (14.0%)	1,028人 (9.0%)	721人 (12.0%)	1,469人 (9.8%)	994人 (11.9%)	954人 (11.3%)

名古屋市公式ウェブサイト「年齢別人口」より
(平成31年3月1日時点公募人口)

子ども会活動

	子ども会数	子ども会員数	1子ども会あたり会員数
市全体	2,026 団体	63,360 人	31 人
熱田区 子ども会	83 団体	2,261 人	27 人

(平成29年度末現在)



(2) 熱田区の良いところ

計画策定に携わった作業部会委員を代表して4名の方に書いていただきました。

人に育まれ 人を育む 熱田の杜

熱田区に住んで20年程になります。住み始めたころは、町に人が歩いていないとか、交通量が多いとか、あまりよい印象ではありませんでした。しかし、しばらく住んでみると、アクセスの良さにビックリ。そして、緑も多く子どもが安心して遊ぶことができる公園や、なんと言っても熱田神宮という鎮守の森が目と鼻の先にあります。区内を見回してみると、歴史的な資源が溢れていることにまたビックリ。

このような熱田区も近年、アクセスの良さからマンションが増え、それに伴い若い世代の方々も増えているように思います。高齢化率が何%とよく話題になります。熱田区の高齢化率もご多分に漏れず高止まりしています。が、前述したように若い世代の方や子どもたちの姿が増えたことで、新しい空気が入り新しい風が吹き始めているように感じます。歴史ある熱田区は、昔ながらのぬくもといつながら残っています。新しい空気や風を取り込んで熱田の杜がもっともっと大きく育ち、全ての人を見守る枝葉となることを願っています。



旗屋民生委員児童
委員協議会会長
長濱 久仁恵



生活介護事業所しらとり
サービス管理責任者
竹田 篤史

生活介護事業所しらとり＋つながり＝熱田区

私が、熱田区に来て16年が過ぎました。街の景観はこの16年間で変化をしていますが、人のつながりはこの間変わっていない気がします。16年間で沢山の方と知り合うことが出来ました。私が勤める「生活介護事業所しらとり」も随分知ってもらえるようになりました。人と言えば職員より、利用者さんの方が沢山の方に知っていただき有名になりました。お祭りを行えば「昨年も司会をしていた人だね」などと声を掛けていただき、散歩に出かければ近所の方や公園の管理事務所の方まで挨拶をしてくれるようになりました。しらとりの利用者さんは、周辺5区から通所してきています。なぜしらとりが良いのか、それは「交通の便がとても良く、あらゆるところに乗り換えなしで行ける」「熱田神宮公園が近くにあるので、自然豊か」「西高蔵駅は大きな駅（金山駅）と一駅しか離れていないのに、とても落ち着いた雰囲気のある地域である」「子供やお年寄りも多く住んでおり、治安の良さがうかがえる」といった声上がるように熱田区の良いところが詰まった地域だからだと思っています。



あったかい心

熱田区は緑豊かな熱田神宮、宮の渡し史跡、断夫山古墳、裁断橋などの悠久の歴史と熱田空襲、伊勢湾台風の忘れてならない記憶があります。また暮らしを支える中央卸売市場、教育を担う名古屋学院大学、文化を発信できる名古屋国際会議場もあります。そして、名身連本部会館と名古屋手をつなぐ育成会本部という大きな2つの団体もあります。「障害者と区民のつどい」で始まった「あったかあつた福祉フェスタ2018」は参加された皆さんの福祉の心の結集によって、昨年10月に30回目を開催できました。あと障がい者に配慮された交通面等の環境という点では、例えば、市営バス停留所「旗屋町」と地下鉄「神宮西」駅出口が点字ブロックで結ばれ高蔵交差点の信号機に音響が付き、西高蔵交差点に新たにエスコートゾーンが敷設されて、視覚障がい者の安全な外出ができるようになりました。加えて住民の皆さんは、私が道に迷っていると声をかけてサポートして下さいます。私が毎年依頼を受けて行う小学校での福祉教室では、生徒さんが素直な心でお話を聞いてくれます。相手のことを思いやり想像することのできるあったかい心のある人が私の周りにはいます。



熱田区身体障害者
福祉協会会長
松岡 信男



スマイルリンク
(子育て支援NPO)代表
山守 和



親も子も、共に育つまち 熱田

結婚を機に他県から名古屋に移り住み、熱田で生活を始めて最初に感じた「あたたかい雰囲気」は、不思議と故郷のような安心感を与えてくれました。この熱田の地に縁もゆかりも無かった私が今「多世代交流型の子育て支援とまちづくり」に取り組んでいるのは、初めての育児で産後ノイローゼに苦しんだ時期に、地域の人や出会いに助けてもらった経験があるからです。熱田区日比野の商店街や学区の子育てサロンで、悩みを聞いてくれる人たちとつながることができたことから、私には居場所がある…！ひとりじゃないのだ…！そんな風を感じることができました。人・街・つながりのあたたかさに救われたのでした。

熱田の良さは、世代を越えてゆるやかなつながりが生まれる街であることだと思います。そんな熱田の魅力をより多くの人を感じることができ、子どもから高齢者までが安心して暮らすことができる街であるように。私自身の活動においても、ゆるく集い楽しめる取り組みを続けていきたいと思っています。



03 第1次～第3次計画までの活動とその成果

第4次計画に至るまでには、3次にわたる計画実行の歴史があります。ここでは、黎明期である第1次から発展期となった第3次までの「基本目標」と「主な活動」、そして、過渡期となる第4次計画に引き継がれるべき「第3次計画の成果と残された課題」を振り返ります。

第1次計画—黎明期

平成16年度～平成20年度

基本目標	主な活動
①地域福祉の拠点づくり	ふれあいいきいきサロンの実施
②在宅福祉サービス事業の推進	在宅サービスセンターの機能強化
③誰もが支えあい交流できる地域づくり	ふれあいネットワーク活動推進員の育成
④安心して生活できる情報提供の整備	福祉マップ・福祉ガイドブックの作成
⑤熱田区社会福祉協議会の基盤体制の整備	賛助会員制度の強化

合言葉

やろうよ、
あったかあつた



第2次計画—成長期

平成21年度～平成25年度

基本目標	主な活動
①場所づくり	あったきゃスポーツ（ポッチャを通じたふれあいの機会づくり）
②人づくり	福祉相談ボランティアの養成
③環境づくり	バリアフリー探検隊（車いすやアイマスク歩行体験等）
④つなげる	機関誌の作成
⑤ささえる	あったかあつた・福祉フェスタの発展

合言葉

いっしょにやろうよ、
あったかあつた



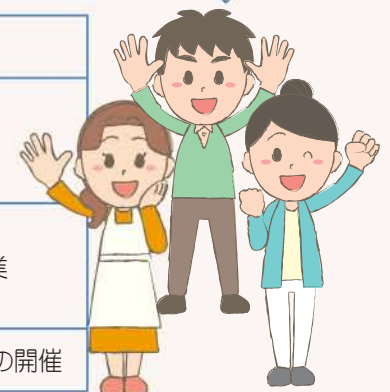
第3次計画—発展期

平成26年度～平成30年度

基本目標	主な活動
①私がちよこっとできることを お互いさまといえる仲間をつくる	ふくし協力店を増やす
②仲間を地域へつなぐ 「はしわたし」の場をつくる	ポッチャカフェ「ひまわり」での交流事業
③孤立を生まない地域をつくる	つながりあったかいぎ（地域課題解決会議）の開催

合言葉

みんなでつながろう
あったかあつた





第3次計画の成果と残された課題

「第5回つながりあったかいぎ（平成30年12月2日開催）」では、第3次計画の取り組みが、生活に支えが必要な人と支えることができる人、活動がマンネリ化している団体と新しい活動を提供できる団体、そして、地域の問題解決に取り組む人同士、それぞれにとって支えとなるつながりを生み出すこと、すなわち、「つながりの橋渡し役」として機能していたことを確認しました。一方で、「熱田区は面積としては狭いが、個人で活動を展開するには広い」「活動の担い手が高齢化している」「地域の方々の協力を得るには、チラシを配るといった間接的な方法では効果が薄い」といった課題も挙げられました。

そもそも地域福祉活動計画がどのようなものなのか理解されていないため、より多くの人に知ってもらう工夫が必要であること、その際、「楽しい」という要素が人々の興味・関心を引きつけるうえで、さらには人々の協力を得る上で重要であることを共有し、熱田区の計画の特色あるいは熱田区の文化となりつつある「ポッチャ交流事業」および「つながりあったかいぎ」の継続、（この間には大学が建設されるなど熱田区は「学びのまち」として変化していることから、）学生といった若者のマンパワーを活かすような取り組みの推進等が第4次計画への期待と要望として示されました。



「第5回つながりあったかいぎ」の様子



04 第4次計画の目標

第1次計画が策定されてから15年が経過し、この間、熱田のまち並みは大きく変わりました。まちが変われば人々の暮らしも変わり、人々の暮らしが変われば地域の課題も変わります。先に述べた通り、第4次計画から、地域福祉活動計画は「熱田区社会福祉協議会」の計画ではなく、「熱田区」を冠した計画として、より住民主体を強調したものに変わります。すなわち、第3次計画を（第1次計画から第2次計画を経たうえでの）「発展期」とすれば、第4次計画は新たな時代に向けた「過渡期」と言えるでしょう。

■あらためて「熱田区地域福祉とは何か」について考える

「福祉」という言葉には、「幸せ」という意味が含まれています。「幸せ」のカタチは人それぞれですが、果たして「地域の幸せ」とはどういうことなのか。作業部会では、あらためて、今の時代にあった熱田区らしい「自分たちの地域福祉のあり方」について検討し、熱田区をどんな地域にしていきたいのか、地域の理想像を描くところからスタートしました。



「第2回作業部会」の様子

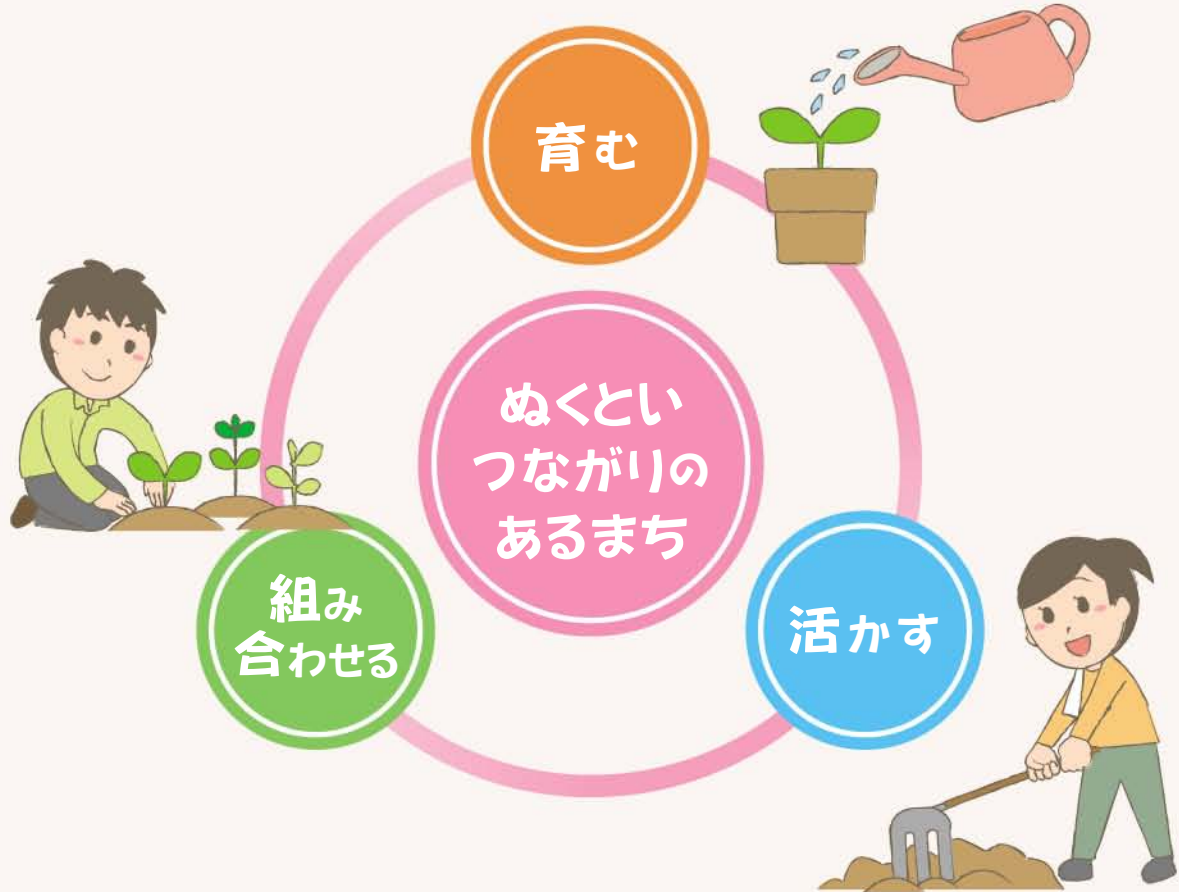
■理想は「ぬくとつながり」のあるまち

私たちが地域で安心して幸せに暮らしていくためには、困ったときに「ヘルプが言える」こと、そして、ヘルプに気づき助けてくれる付き合いがあることが大事な要素となります。とはいえ、「常に誰かとつながっていなければならない」「他人を助けなければならない」となると、それらを負担に感じる人は少なくありません。大切なのは「つながりたい時につながることができる」こと、つまり、①助けとなる資源があること、②助けとなる資源の情報をもっていること、③助けとなる資源から排除されないこと、これらの条件を満たした生活環境であるということです。

そこで第4次計画では、「過度な負担がかからない、でも、いざという時は助けとなるゆるいつながり」を「ぬくとつながり（温とつながり）」と名づけて、誰もが地域にある資源を活かしたい時に活かすことができる、「ぬくとつながりのあるまち」を目標に設定しました。

05 目標を達成するための3つのアプローチ

本計画では、「ぬくといつながりのあるまち」を実現させるため、多様な生物が共生する「森」と地域の人々が長い年月をかけて育ててきた「杜」、これら「もり」を豊かにする方法からヒントを得た「育む」「組み合わせる」「活かす」の3つのアプローチの視点にもとづいて、活動を展開していきます。



(1) 育む

豊かなもりには、豊かな土壌があります。豊かな土壌が生物を潤し、生物が土壌を豊かにします。このような循環がなければ、もりは疲弊し、やがて資源は枯渇します。熱田区がもつ地域の力を持続可能な資源として未来へとつないでいくために、地域が抱える課題の共有や福祉教育の推進等によって、「支えあい」の土壌を育みます。

たとえばこのような取り組み

楽しく学べる教材づくり

単に高齢の方や障害のある方が抱える「課題」のみに注目したものではなく、「強さ」に着目した「楽しい」教育プログラムをつくりまします。

活動応援勉強会の開催

目が不自由な方でも読みやすいチラシ作りなど、地域の問題解決に取り組む人たちが、より活動を展開しやすくなるような講座を企画します。

地域課題解決会議の開催

第3次計画の取り組みを引き継ぎ、地域の課題について情報を共有し、参加者が主体となってその解決に取り組む「つながりあったかいぎ（つながり熱田会議）」を開催します。



(2) 組み合わせる

自然の流れで形成されるもりでは、高い木々が日光を遮り、下草が育ちません。多様なもりを形成するには、適度に人が手を入れ、調和を図ることが重要となります。しかし、誤った手入れや過剰な手入れは逆効果になることもあります。そこで、地域から孤立し生活の問題が深刻になることがないように、行政が提供するより専門的な介護や福祉のサービス、その他広く暮らしに関連する諸制度の取り組みを組み合わせることによって、「地域とのつながり」を保ちます。

たとえばこのような取り組み

「あつたみまもりたい」の活動をともに進める

熱田区地域包括ケア推進会議の生活支援部会では、ご近所ボランティアによるお助け活動（個別の生活支援）を進めるために、「あつたみまもりたい」ステッカーの配布による住民への意識啓発活動を推進しています。

本計画の策定にあたり、「地域でのつながりが希薄になり、困ったときに相談できるところがない」、「制度や事業が様々あるが、そこにつながらない」といった課題が挙げられたことから、これらの活動と連携した取り組みを展開します。



熱田区地域包括ケア推進会議（生活支援部会）とは？

熱田区の地域包括ケアシステム構築の推進母体として、高齢者への適切な支援を図るために必要な検討を行うとともに、高齢者が地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制に関する検討を行うことを目的に設置された会議です。

生活支援部会では、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるように、生活支援・介護予防サービスに関わる団体等によるネットワークをつくり、地域のニーズを把握し、情報共有をすることにより、生活支援の充実・発展を目指しています。なお、生活支援部会は、保健福祉行政やいきいき支援センター、民生委員児童委員、介護保険事業者、共同組合関係者、地域での生活支援実践者等で構成されています。



(3) 活かす

そもそも、地域の問題を解決するために、ゼロからスタートする必要があるとは限りません。わたしたちが暮らす「もり（杜・森）」には、これまで育まれてきた多くの活動とそれを育んできた人々の「知識」や「経験」といった多くの資源があります。主として作業部会のメンバーを中心にプロジェクトチームを結成し、それら「地域の力」を活かした取り組みを展開します。

① あっ！見つけました プロジェクト

すでに活動はあるのに知られていない…。熱田区の「良いところ」や「資源」の認知度アップを目指すプロジェクトです。

たとえばこのような取り組み ※括弧は「つながるアイデア（第6章参照）」の番号

- ・自分の知識や経験が活かせる講座（No. 1）
- ・悪徳商法や振り込め詐欺の被害を防ぐ活動（No. 2）
- ・健康をテーマにしたイベント（No. 3）
- ・熱田区「みんなでのばそう健康寿命（健寿）」（No. 4）
- ・役立つ相談窓口（No. 5）

② わっ！広がっちゃった プロジェクト

すでに活動はあるけど受け入れの対象が狭い…。すでに活動はあるけれど似たような人しか集まらない…。年齢や障がいの有無を問わず、多様な人々が参加できる（参加してもらえる）ように働きかけていくプロジェクトです。

たとえばこのような取り組み ※括弧は「つながるアイデア（第6章参照）」の番号

- ・とことんボッチャ（No. 6）
- ・みんなで防災のワークショップ（No. 7）
- ・バリアフリーな熱田神宮参拝ツアー & 熱田区史跡めぐり（No. 8）

③ よし！やってみよう プロジェクト

こんな活動が欲しいけど無い…。これからの熱田区に必要な、新たな資源となる取り組みを生みだしていくプロジェクトです。

たとえばこのような取り組み ※括弧は「つながるアイデア（第6章参照）」の番号

- ・みんなのまちのおしゃべりカフェ（No. 9）
- ・あつたのイロイロをドローンで撮影（No. 10）
- ・ミニ映画館の開館（No. 11）
- ・熱田区版ゴジカラ村（No. 12）
- ・赤ちゃんとのふれあい会（No. 13）
- ・熱田区版超人スポーツ（No. 14）
- ・ちょっとした外出に付き添ってくれるグループづくり（No. 15）



06 つながるアイデア

第5章で述べた、各プロジェクトにおける取り組みのテーマ案一覧です。興味のあるテーマが見つかった方は、是非、「つながりメンバー（第8章参照）」として登録してください。一緒に活動しましょう！

No.	テーマ	備考・具体例等
1	自分の知識や経験が活かせる講座	・高齢者や障がいのある方への薬の知識の提供
2	悪徳商法や振り込め詐欺の被害を防ぐ活動	・戸別訪問による防犯啓発活動
3	「健康」をテーマにしたイベント	・多世代交流イベントとして開催
4	熱田区「みんなでのばそう健康寿命(健寿)」	・これまで地域活動に参加してこなかった人達に健寿で第一歩を踏み出してもらう
5	役立つ相談窓口	・ミニコミ誌を作成し診療所や薬局等で配布
6	とことんボッチャ	・ボッチャを通じた交流会の実施やボッチャ審判員の養成
7	みんなで防災のワークショップ	・年齢や障がいの有無を問わない防災の学習会等の開催
8	バリアフリーな熱田神宮参拝ツアー & 熱田区史跡めぐり	・バリアフリー目線によるツアーやコースを企画し道中の困難なことや工夫されていることをマップにする ・誰もが楽しめるスタンプラリー等の作成
9	みんなのまちのおしゃべりカフェ	・福祉施設等で作られた食品や物品などを使ったカフェの開催 ・孤食を解消するための低額で手作りの食事の提供と会食 ・年齢や障がいの有無を問わず誰もがシェフになれる「日替わりシェフ」企画
10	あつたのイロイロをドローンで撮影	・福祉施設やイベント等を紹介する動画作成とインターネット配信
11	ミニ映画館の開館	・楽しい時間の共有とカラオケを楽しむ会の同時開催
12	熱田区版「ゴジカラ村」	・空き家等を利用した多世代交流や井戸端会議などの場や機会の提供
13	赤ちゃんとのふれあい会	・子育て中の親の孤立予防
14	超人スポーツ(熱田版)	・年齢や障がいの有無にかかわらずすべての人が一緒に楽しめるスポーツの実施
15	ちょっとした外出に付き添ってくれるグループづくり	・地域サロンや認知症カフェへのデビューを支援 ・障がいのある方々が行事等に参加する際に必要なガイドヘルプができるグループの結成

目的

「ぬくといつながり」※のあるまち

※過度な負担がかからない、でも、いざという時は助けとなるゆるいつながり

目標

- ・ヘルプが言えるまち
- ・つながりたい時につながることができるまち

条件

- ①助けとなる資源があること
- ②助けとなる資源の情報をもっていること
- ③助けとなる資源から排除されないこと

目標を達成するための3つのアプローチ

育む

- ・楽しく学べる教材づくり
- ・活動応援勉強会の開催
- ・地域課題解決会議（つながりあったかいぎ）の開催

地域福祉活動計画推進会議（仮称）が中心となって実施

活かす

地域の力を活かした3つのプロジェクト

あっ！見つけましたプロジェクト

つながるアイデア No. 1～No. 5

わっ！広がっちゃったプロジェクト

つながるアイデア No. 6～No. 8

よし！やってみようプロジェクト

つながるアイデア No. 9～No. 15

有志の地域住民、団体、社会福祉法人等とのプロジェクトとして実施

組み合わせる

- ・「あつたみまもりたい」の活動

連携

熱田区地域包括ケア推進会議
生活支援部会

08 計画の推進体制と評価

(1) 推進会議（仮称）の設置とプロジェクトチームの結成

計画実行と進捗管理を主たる目的として、本計画の作業部会委員を中心とする地域福祉活動計画推進会議（仮称）を設置し、目標を達成するための3つのアプローチにもとづいた取り組みの具体化および実行にあたります。

とはいえ、「第4次計画策定のねらい（第1章参照）」でも述べた通り、第4次計画の主体はわたしたち住民です。そこで、本計画の実行にご協力いただける、地域の相談支援機関、団体、社会福祉法人、福祉サービスをはじめとした事業者、そして地域住民を、「つながりメンバー」として広く募り、適宜プロジェクトチームを結成して取り組みます。



(2) 計画の評価

計画の評価にあたっては、①先に掲げた 3 つのアプローチにもとづいた取り組みの実行度はもちろんのこと、②具体化した取り組みのねらいと本計画の目的・目標との合致度や、③取り組みの効果、④本計画への住民（つながりメンバー）の協力度といった観点から、総合的に検証します。

なお、計画のより客観的な評価をめざして、地域住民一人ひとりがもつ「ぬくといつながり」の状態を数値で（定量的に）評価できる尺度（ぬくといつながり尺度）の開発を目指します。

「ぬくといつながり尺度」のイメージ

つながりのレベル				
1	2	3	4	5
無関心	知る	会う 集う	理解する 共有する	担う

こうした尺度を導入することにより、例えば、町内会の活動に無関心（レベル1）であった住民が、本計画の取り組みを通じて、その活動を知り（レベル2）、町内会の行事等に集うようになり（レベル3）、町内会の活動の意義を理解し（レベル4）、町内会の役員として担い手側にまわった（レベル5）、というような段階的な変化を、数値（順序尺度）で捉えることが可能になると考えられます。



(1) 第4次計画の策定経過

第1回 平成30年5月28日

主な議題	内 容
<p>○地域福祉活動計画について</p> <p>○自己紹介&互いを理解するためのワークショップ (ワールドカフェ方式)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次地域福祉活動計画の概要と4次計画での目指す方向性について説明。 ・「活動計画の場でやれそうなこと、やってみたいこと」をワークショップで述べてもらう。

第2回 平成30年6月21日

主な議題	内 容
<p>○前回振り返り</p> <p>○ワーク「どんな地域にしていきたいか」 (ワールドカフェ方式)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ①熱いぬくとい、つながりの町 <ul style="list-style-type: none"> □意見（一部抜粋） ・高齢者が外に出やすい。 ・認知症予防として閉じこもりをさせない。 ・世代間交流ができる。 ②つながりたいときに、つながることのできる地域。 <ul style="list-style-type: none"> □意見（一部抜粋） ・あいさつできる関係づくり ・SOSを出すことができる関係づくり ・災害で困ったときに心配。 ・つながりたくない人もいる。きっかけ作り必要。 ・男性はおしゃべりだけでは出てこない。 ・人に頼める場があるとしあわせ。 ・障がい者施策を利用して生活していると地域との接点がない。 ③ヘルプが言える町 <ul style="list-style-type: none"> ・町内会活動は大切。 ・あいさつ、雑談、井戸端会議ができる ・家庭の補完 ・つながったときのメリットとデメリット ・家庭以外の地域の役割 ・困っていないときからつながっている

第3回 平成30年7月30日

主な議題	内 容
<p>○前回振り返り</p> <p>○ワーク「つながりの尺度、指標を考えよう①」</p>	<p>・「ぬくといつながり」の指標をつくる。つながりの程度や状況、ものさし（尺度）を考え、どのレベルに達したら「ぬくといつながりがある」か、計画で最終的に目指す形がどんなものを共有化することに繋げるためにも、「ぬくといつながり」の指標（尺度、ものさし）を3つのグループに分かれて考えてみる。</p>

第4回 平成30年8月30日

主な議題	内 容
<p>○前回振り返り</p> <p>○ワーク「つながりの尺度、指標を考えよう②」</p>	<p>・第3回のグループワークで実施した「つながりの程度」指標の続き。対象者（人物、団体等）ごとに「『つながり』度がどのような状態であれば、強いのか弱いのかを考えてみる。</p>

第5回 平成30年9月21日 ※生活支援部会との合同会議

主な議題	内 容
<p>○生活支援部会及び4次計画作業部会（報告）</p> <p>○ワーク「つながりの尺度、指標を考えよう③」</p>	<p>・生活支援部会と4次計画との目的・住み分けについて説明。</p> <p>・第4回のグループワークで実施した「つながりの程度」指標の続き。対象者（人物、団体等）をいくつか選定し、「『つながり』度がどのような状態であれば、強いのか弱いのかをグループワークで検討。</p>

第6回 平成30年10月19日

主な議題	内 容
<p>○計画期間（5年）の到達目標</p> <p>○ワーク「具体的な活動づくり①」</p>	<p>・前回までの「つながりの尺度、指標を考えよう」を踏まえて、どの程度の「ぬくと関係」が築けたら目標達成かについて意見交換。</p> <p>・前回までの「つながりの尺度、指標を考えよう」のグループワークの結果を踏まえて、改めて「活動計画の場でやれそうなこと、やってみたいこと」のグループワークを行う。</p>



第7回 平成30年11月7日

主な議題	内 容
○前回振り返り ○ワーク「Win-Winの関係性 でできること」	・「熱田ぬくといつながり尺度」表を完成。評価基準としては、ぬくといい尺度レベル3を目標の目安とした。 ・グループワークでは、活動計画でやりたいことについてより具体的に『社協と委員自身のWin-Winの関係』を考えながら意見交換。

「つながりあった会議」 平成30年12月2日

主な議題	内 容
○名古屋学院大学 ・名古屋キャンパスたいほう コミュニティリンクにて	・第3次地域福祉活動計画の成果報告会である当会議に、4次計画作業部会委員も参加。 ・「つながる」ことの大切さを再認識しつつ、第3次計画に込められた思いや意志を引き継いだ。

第8回 平成31年1月24日

主な議題	内 容
○アイデアシートの共有と ワーク	・各作業委員に「第4次計画アイデアシート」に取り組んでみたい具体的実施内容を記載していただきプレゼン方式で発表し、内容ごとに分類を行った。

第9回 平成31年2月28日

主な議題	内 容
○実施事項の検討 ○計画冊子について	・前回行ったアイデアシートの仕分け結果を再度作業委員で確認し、別の分類方法があるかどうかを意見交換。 ・計画冊子の構成を提示し、冊子案の内容について項目ごとに説明した。また各作業委員にも意見を求めた。 ・「熱田区のよいところ」の項目に執筆いただく作業委員を選任した。



(2) 策定委員名簿

(敬称略)

役職名	氏 名	選出職名
委員長	山崎 梅治	民生委員児童委員連盟熱田区支部支部長
副委員長	山下 匡将	名古屋学院大学現代社会学部准教授
委 員	石田 ゆり子	民生委員児童委員連盟熱田区支部副支部長
委 員	中田 俊夫	熱田区区政協力委員協議会議長
委 員	吉戸 禎博	熱田区役所福祉部長
委 員	西川 和之	熱田区区政協力委員協議会副議長
委 員	鬼頭 満之	熱田区保育協会会長
委 員	伊野 二彦	熱田区老人クラブ連合会会長
委 員	中村 かよ子	サークルぐーちよきぱー代表
委 員	青木 宣彦	熱田区保健環境委員会会長
委 員	水谷 武彦	熱田区医師会会長
委 員	矢野 進一	熱田区歯科医師会会長
委 員	澤井 恒伸	薬剤師会熱田区支部長
委 員	水野 鉦二	大宝学区区政協力委員会委員長
委 員	中村 公治	大宝民生委員児童委員協議会会長
委 員	中田 素生	作業部会委員代表
委 員	西川 里子	作業部会委員代表

平成 31 年 3 月 31 日現在



(3) 作業部会委員名簿

(敬称略)

役職名	氏 名	選出職名
リーダー ※策定委員兼務	中田 素生	公募委員
サブリーダー ※策定委員兼務	西川 里子	公募委員
作業部会委員	長濱 久仁恵	旗屋民生委員児童委員協議会会長
作業部会委員	脇田 信二	高蔵民生委員児童委員協議会副会長
作業部会委員	松岡 信男	熱田区身体障害者福祉協会会長
作業部会委員	奥村 幸子	熱田区手をつなぐ育成会副会長
作業部会委員	竹田 篤史	特定非営利活動法人しらとり事務局長
作業部会委員	玉川 貴子	名古屋学院大学現代社会学部准教授
作業部会委員	伊藤 友美	Man to Man Passo 株式会社 就労相談支援室長
作業部会委員	尾崎 卓雄	公募委員
作業部会委員	山守 和	公募委員
作業部会委員	二村 賢	福祉課主査(地域包括ケア担当)
作業部会委員	伊神 智代	熱田保健センター主査(保健看護)
作業部会委員	平松 まゆみ	熱田保健センター保健師(地域包括ケア担当)(～ H31. 3)
作業部会委員	瀬古 かおり	熱田保健センター保健師(地域包括ケア担当)(H31. 4 ～)
作業部会委員	野川 祐史	熱田区いきいき支援センター長(～ H31. 3)
作業部会委員	長嶋 寛子	熱田区いきいき支援センター長(H31. 4 ～)
作業部会委員	犬飼 博子	熱田区介護保険事業所ミドルマネジャー
作業部会委員	久野 寿枝	熱田区障害者基幹相談支援センター
作業部会委員	林 拓郎	熱田福社会館主事
作業部会委員	難波 克彰	熱田児童館主事
学識経験者	山下 匡将	名古屋学院大学現代社会学部准教授

平成 31 年 3 月 31 日現在

(4) 第4次熱田区地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 熱田区における地域福祉活動を計画的に推進することを目的として、第4次地域福祉活動計画(以下「活動計画」という。)を策定するため、社会福祉法人名古屋市熱田区社会福祉協議会(以下「区社協」という。)に、第4次地域福祉活動計画策定委員会(以下「策定委員会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 策定委員会は次の各号について協議する。

- (1) 活動計画の策定に関する事項
- (2) 活動計画の推進に関する事項

(組織)

第3条 策定委員会は、次の各号に属する策定委員20名以内で構成し、区社協会長が委嘱する。

- (1) 区社協役員
 - (2) 学識経験者
 - (3) 作業部会の各部会委員の代表者
- 2 策定委員会に委員長及び副委員長を各1名置き、策定委員の互選により選出する。
 - 3 委員長は、策定委員会を代表し、会務を掌理する。
 - 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(作業部会)

第4条 活動計画の策定に関し、必要な資料の収集、調査による地域生活課題の把握と整理と必要な地域福祉活動の検討を行い、計画案を作成するため、策定委員会のもとに作業部会を設置する。

- 2 作業部会の部会委員は、次の各号に属する者とし、区社協会長が委嘱する。
 - (1) 学識経験者
 - (2) 社会福祉関係者
 - (3) 社会福祉活動に関心のある者(公募委員を含む)
- 3 作業部会には、部会長1名及び副部会長若干名を置き、部会委員の互選により選出する。
- 4 部会長は、作業部会を代表し、会務を掌理する。
- 5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるときは、あらかじめ部会長に指名された副部会長がその職務を代理する。
- 6 策定作業を円滑かつ効率的に進めるため、必要に応じてテーマごとの検討を行う「ワーキンググループ」を設置することができる。



(任期)

第5条 策定委員及び部会委員の任期は、活動計画の策定をもって終了する。

(会議)

第6条 策定委員会及び作業部会の会議は、委員長及び部会長が招集し、議長となる。

2 策定委員会及び作業部会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 策定委員会及び作業部会の庶務は、区社協事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、区社協会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年12月20日から施行する。



(5) 本計画の素案に対するパブリックコメント

区民の皆様からのご意見を紹介します（一部抜粋）。

つながるための「はしわたし」のはしが大きくなったり、つなげる人ががんばりすぎるとつながりたい人たちが、かまえて、気おくれしてしまう。

もっと気軽に「フラッ！」と参加できる…。

そんな雰囲気をつくれたらいいと思う。

「とことんボッチャ」など交流会を多くし時には参加の呼びかけではなく（待ってるだけではなく）押しかけて地域（団体・人）の中へ入っていく事もいいのではないか。



熱田区民として約 30 年。住んでいて感じた事、それはとても温かい区そして歴史の多い区です。

市内 16 区の真ん中に位置があり、名駅、栄等交通にも便利な熱田区です。

実は私は 15 年前に身体障がい者となり閉じこもりの日々でしたが近所の方達がとても心配して頂き、私を外へ出るようにと心のリハビリを頂き現在は健常者の頃より色々な事をさせてもらっています。

私の住んでいる学区も高齢化していますが、先輩方が築きあげた温かい熱田区を私達中高年及び次世代の若者へバトンタッチしてお互いに住みよい街を作りたいです。





第1次～第3次までの計画での活動を組み合わせ第4次につながるアイデアとても楽しみです。

高齢者・障がい者・子育て世帯への働きかけがこれからも重要になってくると思いますが令和の時代、更にグローバルな社会が広がり、地域コミュニティでも外国人が増えてくることでしょう。

今までの様に他人言とは言っていない様々な問題も出てくると思います。

他の地域では、外国人と地域住民と交流できる様な企画も始まっている様です。熱田区でも少し計画の中に入れられたらと思います。

取り組みのテーマ案一覧、見ました。No1～No15、どれも良いなあ…と思います。

ただし実際にどれだけの予算があるのかと疑問もありますが、いずれも活動をしていけたら楽しいだろうと思います。

年齢、立場により、幸せの感じ方は違います。例えば、結婚して子どもを授かり明るい未来を描き続けられたら良いです。実際は育休中のママが初めての育児にとまどい負担に感じたり、社会とのつながりが無くなるさびしさを感じることもあります。

核家族、シングルマザー、シングルパパ、でも、子どもが明るく育つ＝親の心的負担、金銭的負担、体力的負担が少ないことを希望します。

ママ、パパの笑顔の家庭＝子どもが健やかに育つ。地域に気軽に情報を得る場所(区役所以外に)頼れる窓口(保育所、幼稚園、など…?)、預ける所、遊べる場所がもっとあるとうれしいです。今、行われている支援がどんなもの(会)があるのか、の情報もあまり知らないのですが…。



(6) 第3次地域福祉活動計画のグループ別振り返り

(平成26(2014)年度～平成30(2018)年度)

Aグループ

Aグループ目標

私がちょこっとできることをお互いさまといえる仲間をつくる

基本計画 (活動テーマ)	地域でちょこっとできる人を増やす	お互いさまの場をつくる
5年間で行ったこと		
26年度	<ul style="list-style-type: none"> 「ちょこっとできる人材探し」として「サロン活動を担う人材の掘り出し」に絞り、サロンを知るために3か所のサロン見学を行った。 さらに深く知るために聞き取りシートを用意し、5か所のサロンの訪問及び代表者へのヒアリングを行った。 	
27年度	<ul style="list-style-type: none"> Aグループの支援によるサロン立ち上げを目標に掲げた。 前年度に引き続き、サロンの訪問及び代表者へのヒアリングを2か所実施した。 おひさまクラブ作品展会場の一部を使用し、「サロン作品展示会」を開催。8サロンが参加した。 たまり場的な場所をサロンとして活用できる可能性を探るために、9店舗（白鳥学区3、船方学区6）の喫茶店を訪問し店主への聞き取り（定期のお客さんから福祉分野の会話をすることがあるか等）を行った。 	
28年度	<ul style="list-style-type: none"> 喫茶店へのヒアリングを踏まえて地域資源としての活用方法について検討した。サロンを店内で開催することは難しいが、定期のお客さんから、地域での福祉に関する困りごとや気になる住民さんの情報を社協に繋いでいただく程度のことではないか。 船方学区内の複数の喫茶店に依頼をしてみることにし、「ふくし協力店」への賛同と協力を依頼した。（船方学区2店舗了承） 	
29年度	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくし協力店」PRツールとしてポケットティッシュを作成し配付 最終的に「ふくし協力店」に船方学区内8店舗のご協力をいただいた。 Aグループの一部メンバーに喫茶店主から社協等へのつなぎ依頼があった。 	
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 「人を知る、店を知る～お互いさまでともに笑顔で～」のふくし協力店一覧を掲載したチラシを各喫茶店に置かせてもらった。 イラスト付きのチラシにしたところ、手に取る人が増えた。 Aグループの一部メンバーに喫茶店主から社協等へのつなぎ依頼があった。 	
グループ目標についての振り返り・評価		
【成果・効果】	<ul style="list-style-type: none"> 地域でちょこっとできる人を増やすことについては、8人のできる人を発掘した。船方学区内の喫茶店8店舗に「ふくし協力店」になっていただいた。 「困った時は社協まで」と相談の声が出しやすいよう、チラシやティッシュを置いて周知をした。 	
【課題・問題】	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくし協力店」に顔を出し、チラシを配布することなどを継続することが、このメンバーでは難しくなった。（3次計画終了後にどのようにしていくかを検討） 予算が少なめで活動を大きく活性化させるような取り組みには至らなかった。 	
5年前と今ではどう変わったか	<ul style="list-style-type: none"> 当初8名のグループメンバーが現在では、5名に減ってしまったが、全員継続することが難しい部分がある。 社協職員が入れ替わったが、メンバーとともによくやってくれた。 	
全体目標についての振り返り・評価		
全体目標についての思い	<ul style="list-style-type: none"> ふくし協力店の店主から委員に地域での問題の相談があった。委員が助言したり、区役所や社協への相談を勧めることを行った。このようなことによって、協力店のあるエリアの地域福祉の向上に貢献できた。 グループ活動を月1回ペースで行う中で、グループメンバー同士のゆるいつながりができた。 	



B グループ

Bグループ目標

仲間を地域へつなく「はしわたし」の場をつくる

基本計画 (活動テーマ)	地域の仲間を知る	お互いを知るパイプづくり	「はしわたし」の場をつくる
5年間で行ったこと			
26年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域の仲間を知る視点「施設」「ボランティア」「地域グループ（町内会 他）などの仲間を知ることから始めるため、区内の「施設」66カ所へアンケート調査を実施した。 調査結果から、施設の7割がイベントや行事のボランティアの要望があった。 		
27年度	<ul style="list-style-type: none"> ポッチャをツールとした交流やつながりを検討。交流イベントの企画を通じて、「はしわたし」の場をつくることを検討。つなげる「ツール」として、手打ちうどんやポッチャについて討論し、前年度のアンケート結果を踏まえ、施設に依頼し、ポッチャを通じた利用者と住民をつなげるためランチサロンを開催。 		
28年度	27年度の取り組みを活かし、既存事業（おひさまクラブ）や障害者や高齢者施設等でお出かけポッチャ交流を実施。ポッチャを通じたつながりづくり積極的に広めた。<15回実施>		
29年度	<p>「はしわたし」の場＝出会いの場 ポッチャ交流会開催（12/16、1/20） ポッチャをツールとして新たに熱田鯨城会を始め意欲的なメンバーとつながった。また、交流会のお菓子（施設製品）が好評で鯨城会が後日再度利用し鯨城会と施設のつながりも構築できた。しかし、目的とする施設従事者やサロン世話人などが集まっていなかった。今後は施設とボランティアとのつながりの構築が課題。</p>		
30年度	<p>はしわたしの場＝ポッチャカフェ“ひまわり” 7/13ポッチャ交流会の開催に向けて検討を重ねる。 過去の経験や反省を活かし、口コミで参加者（施設従事者、サロン世話人、ボランティア）に周知する。今回、つながった参加者へスタッフとしての参加を呼びかけ、関係をつなげる。参加人数約55名。スタッフ10名。 つなげるツールとして、誰もが楽しめるポッチャ以外にも、甘味（2施設、1大学）、お茶（1企業）楽しい雰囲気（室内の飾り付け：社協賛助会員うちわ、音楽：ボランティアによる演奏）、得るものがあったなと思わせるもの（サロン、施設、ボランティアの情報など）を意識して準備。 今後、ポッチャをとおして知り合えた鯨城会、おひさまクラブ、おとこぐみの方たちとのネットワークを構築し、第4次活動計画へとつなげていきたい。</p>		
グループ目標についての振り返り・評価			
【成果・効果】	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度の地域の仲間を知るためのアンケート結果では、施設の7割が交流やイベントのボランティアの要望が多かった。 そのツールとして「ポッチャ」は有効 お互いを知る「パイプ」と「はしわたし」の場は、施設とボランティアをつなぐパイプをコーディネートし、ポッチャでの交流することではしわたしができた。基本テーマを3つ絡めて、最終的にはポッチャカフェ“ひまわり”が生まれた。 		
【課題・問題】	<ul style="list-style-type: none"> 施設への呼びかけの中で、高齢者施設に比べて、障害児者の参加が少なかった。 仲間を地域へつなぎは「これだ！」と見出せなかったが、ポッチャカフェひまわりの場での名刺交換をきっかけに、参加したそれぞれの方がつながった。また、こうしたポッチャ交流に協力したい人が集まったが、今後どのようにつなげていくか。 		
5年前と今では どう変わったか	<ul style="list-style-type: none"> 社協職員の交代とメンバーの減少 グループ内でのつながりができ、強くなった。また、メンバーから次の仲間と地域へつなぐことができた。 外へのつながりを考え、計画推進の他のグループとつながりたかった。 		
全体目標についての振り返り・評価			
全体目標に ついての想い	ポッチャカフェひまわりを半年ベースでできたらよいか。第4次計画の人からの依頼があればポッチャをつなぐのツールとして楽しめると良い。		

C グループ

Cグループ目標 孤立を生まない地域をつくる

基本計画 (活動テーマ)	孤立の状態や地域の課題を知る	支えあいの心を育む	地域との接点をつくる
5 年間で行ったこと			
26 年度	<p>【SOS を出している地域への関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「孤立の状態や地域の課題をまずは知る」ことから始めたが、タイミング良く、ある集合住宅の自治会長からの SOS を受け、取り組みを行うことになった。 ・住民との打ち合わせやアンケートをもとに、①高齢者サロンの立ち上げと開催支援、②名古屋学院大学学生による自治会活性化プログラムの実施 ③見守り大家さんの情報収集 ④COC（地（知）の拠点事業と連携した第1回「つながりあったかいぎ」を開催 		
27 年度	<p>【SOS を出している地域への関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の住民向け企画の実施（情報提供、勉強会の実施） ・名古屋学院大学生による「自治会インターンシッププログラム」戸別訪問調査、立ち合い演説会、投票、その他クリーン作戦など ・名古屋市・名古屋市社協共催「つながり・支えあおう地域福祉のすゝめ」にて実践報告【つながりあったかいぎ（第2回）】 ・「あなたには行きつけの場所がありますか？」のサブテーマで実施 		
28 年度	<p>【SOS を出している地域への関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あったかサロンの活動支援、集合住宅への働きかけ 【つながりあったかいぎ（第3回）】 ・「つながろう、広げよう、地域のキーパーソン」のサブテーマで実施 		
29 年度	<p>【SOS を出している地域への関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あったかサロンの活動支援、集合住宅への働きかけ 【つながりあったかいぎ（第4回）】 ・リレートーク（子育て支援の実践から）、グループトーク（日ごろの活動から感じること語り、考えよう）、フリートーク（お互いの活動を紹介しあおう） 		
30 年度	<p>【SOS を出している地域への関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あったかサロンの活動支援 【つながりあったかいぎ（第5回）】 ・第3次地域福祉活動計画成果報告会を兼ねて実施 シンポジウム、グループトーク（わたしたちはどうしてつながるのか？） 		
グループ目標についての振り返り・評価			
【成果・効果】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を知る機会、支えあいの心を育む機会、地域と接点を持つ機会として「つながりあったかいぎ」を開催。（5回） ・孤立予防のために集合住宅における学生の協力によるサロン運営支援と訪問、清掃活動の実施。学生の戸別訪問による困りごとの聞き取りとそのサポート活動の実施。 		
【課題・問題】	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりを評価するための指標（尺度）を作成することができなかった。 ・「つながりあったかいぎ」参加者のその後のつながりを知る機会が足りなかった。 ・つながりづくりのアイデア集を作成するための情報収集が十分ではなかった。 ・各グループ間のつながりが不十分だった。 		
5 年前と今では どう変わったか	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のつながりは十分にでき、計画会議以外でも協力・連携をすることができた。 ・地域の「課題」だけでなく、まずは「強み（良いところ）」を感じたり、目を向けることができるようになった。また、強みを生かすような取り組みを話し合うことができた。 		
全体目標についての振り返り・評価			
全体目標に ついての想い	<ul style="list-style-type: none"> ・つながろうとした人やつながった人には必ず Win があることを示すことができた。 ・まずは、委員自らがつながることが重要だと感じた。 ・人がつながるには、たくさんの時間と機会が必要であることが分かった。 		





第4次熱田区地域福祉活動計画
「ぬくといつながり」のあるまちの育て方

令和元年5月発行

編集・発行 社会福祉法人名古屋市熱田区社会福祉協議会
〒456-0031 名古屋市熱田区神宮三丁目1番15号
熱田区役所等複合施設6階
TEL : (052)671-2875 FAX : (052)671-4019
URL : <http://www.atuta-shakyo.jp/>

印刷 株式会社ティーケイデザイン



社会福祉法人 名古屋市熱田区社会福祉協議会

